

2022年度版(2021年度実績)

事業概要

Outline of activities



Contents 目次



■ 概 要

Outline

事業内容	Main Activities	3
全国の血液センター	Blood Centers in Japan	4
血液事業のながれ	Flow of Blood Services	5
血液のゆくえ	Flow of Blood Products	6
献血状況	Change in Number of Donors	7
供給状況	Supply of Blood Products	11
血液製剤一覧	List of Blood Products	12
広報活動	Public Relations	13

■ 活動実績

Actual result

2021年度日誌	Diary	15
献血功労表彰	Recognition	17
2021年度山口県献血推進ポスター・作文入賞作品	Poster and Composition	18

■ 組 織

Organization

組織機構図	Organization Chart	23
職員数	Number of Staff	24
車両台数	Number of Vehicle	24
施設	Facilities	25

■ 沿 革

History

沿革	History	27
----	---------	----

血液を通して、人と人を結んでいます。

血液センターでは、現代医療に欠かせない輸血用血液の供給をはじめ、

血液に関するさまざまな事業を行っています。

血液を通して大切ないのちを守り、人と人とを結ぶ架け橋として日夜努めています。

□ 事業内容 Main Activities

事業

日本赤十字社血液センター規則第3条の2により次の事業を行います。

- 1 献血者の確保及び献血の受入れ
- 2 血液製剤の供給
- 3 その他血液事業本部長が必要と認めた事業

2022年度山口県献血推進計画

必要血液量及び献血者を確保するため、次の取り組みを行います。

- 1 献血運動推進強調月間等におけるイベント等の開催
- 2 広報活動
- 3 若年層に対する献血思想・体験の普及
- 4 複数回献血者の確保
- 5 団体・事業所における献血の推進
- 6 400mL献血及び成分献血の推進
- 7 啓発資材の作成と活用
- 8 献血協力団体及び個人の表彰
- 9 地区献血推進協議会活動への支援
- 10 市町、健康福祉センター担当者の研修への協力要請

その他にも下記の取り組みを行います。

- 1 災害時等における輸血用血液の確保
- 2 血液製剤の適正使用の推進

関連事業

骨髄バンク事業



日本赤十字社公式マスコット
ハートラちゃん

血液製剤を不足なくお届けするための全国のネットワーク。

日本赤十字社が血液事業を推進するために、全国に血液センターが整備されています。
また各ブロック血液センターでは、検査・製剤・需給管理部門の業務を行っています。

□ 全国の血液センター *Blood Centers in Japan*

(2022年4月1日現在)

日本赤十字社 血液事業本部 (1)
ブロック血液センター (7)
地域血液センター (47)

北海道ブロック

北海道ブロック血液センター (北海道札幌市)
〈地域血液センター〉 北海道

東北ブロック

東北ブロック血液センター (宮城県仙台市)
〈地域血液センター〉 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県

関東甲信越ブロック

関東甲信越ブロック血液センター (東京都江東区)
〈地域血液センター〉 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・
山梨県・長野県

東海北陸ブロック

東海北陸ブロック血液センター (愛知県瀬戸市)
〈地域血液センター〉 富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県

近畿ブロック

近畿ブロック血液センター (大阪府茨木市)
〈地域血液センター〉 滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県

中四国ブロック

中四国ブロック血液センター (広島県広島市)
〈地域血液センター〉 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県

九州ブロック

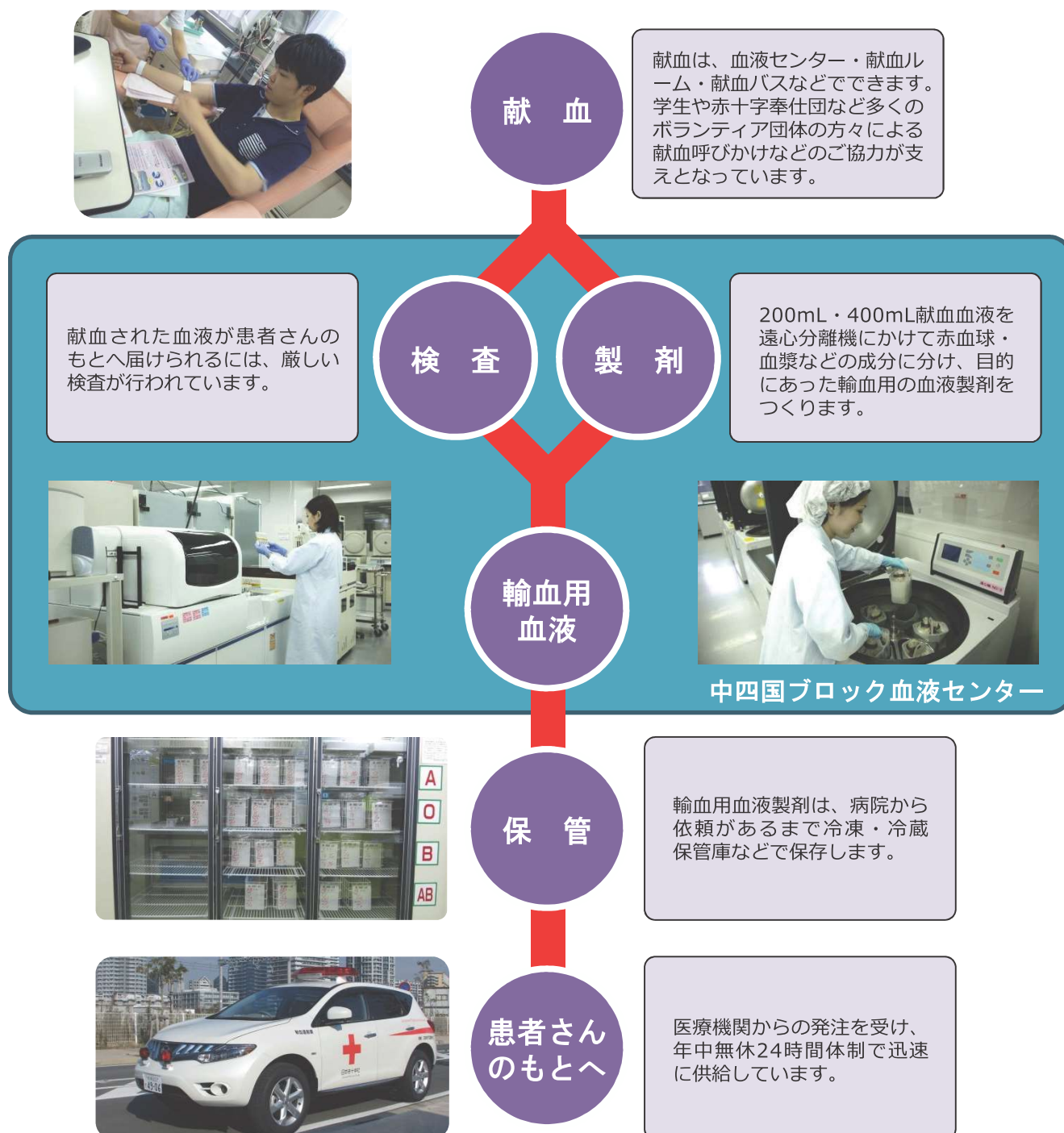
九州ブロック血液センター (福岡県久留米市)
〈地域血液センター〉 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

安全性の高い血液確保と安定供給に向けて。

善意の献血で得られた血液は、厳しい検査をはじめいくつもの工程を経て、輸血用血液製剤として生まれ変わります。

私たちは、人命尊重のためにこの安全性の高い輸血用血液製剤を医療機関に安定供給することを心がけ、24時間体制で医療を支えています。

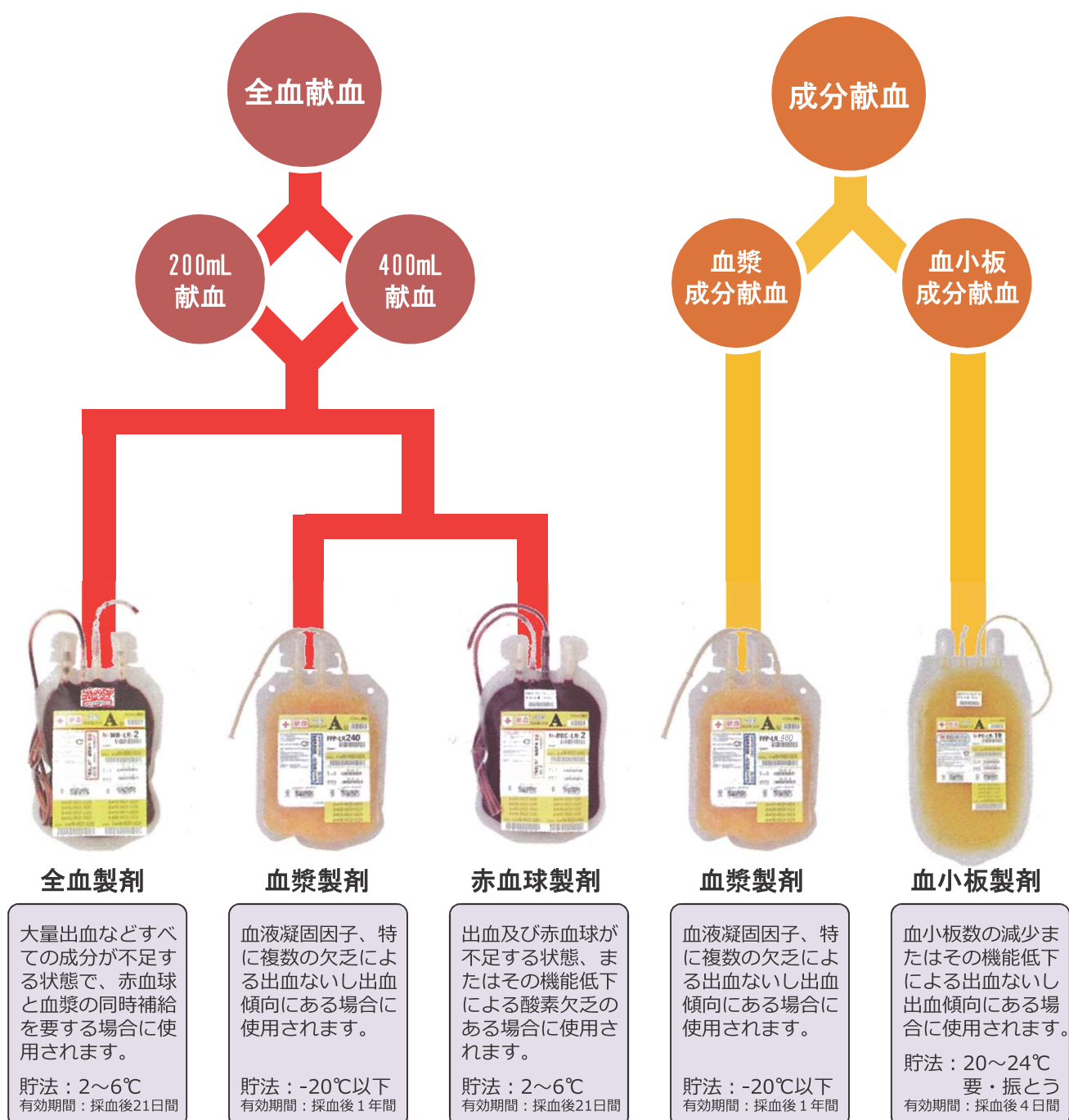
□ 血液事業のながれ *Flow of Blood Services*



みなさまの善意に、よりお応えするために。

献血していただいた血液は、
輸血用血液製剤【全血製剤・血液成分製剤（赤血球・血漿・血小板）】として医療に使われています。
血液を必要としている患者さんにとって、
安全性の高い血液を安定的にお届けするためには、
健康なみなさまによる献血のご協力が必要です。

□ 血液のゆくえ *Flow of Blood products*



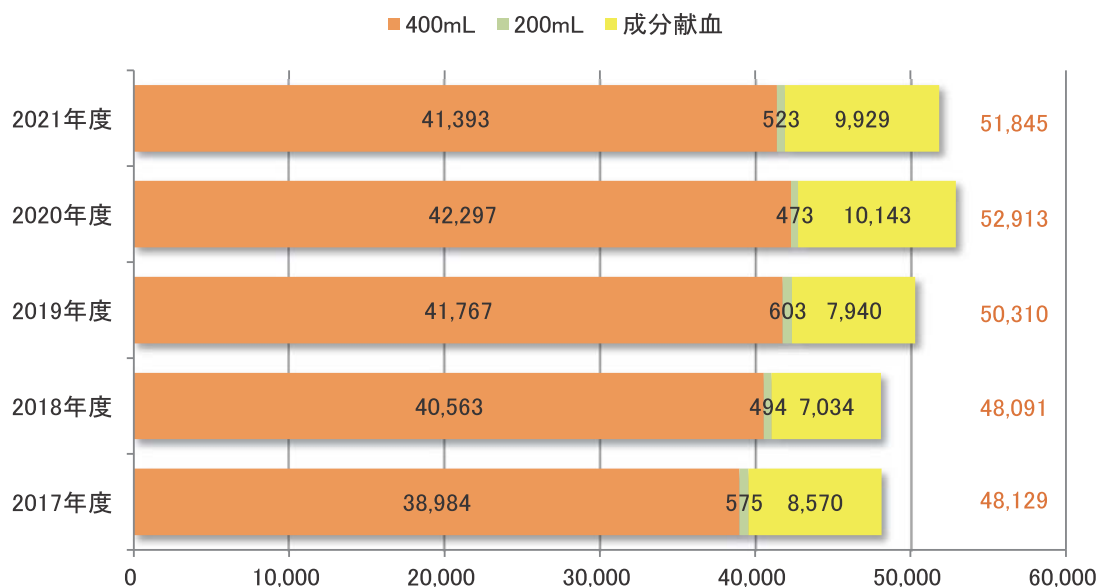
（一部写真 出典：愛のかたち献血 平成28年4月第21版）

2021年度の献血者数は51,845人。

血液センターでは、輸血時の副作用軽減のため成分献血・400mL献血を推進しています。

献血状況 *Change in Number of Donors*

献血者数の推移（山口県）



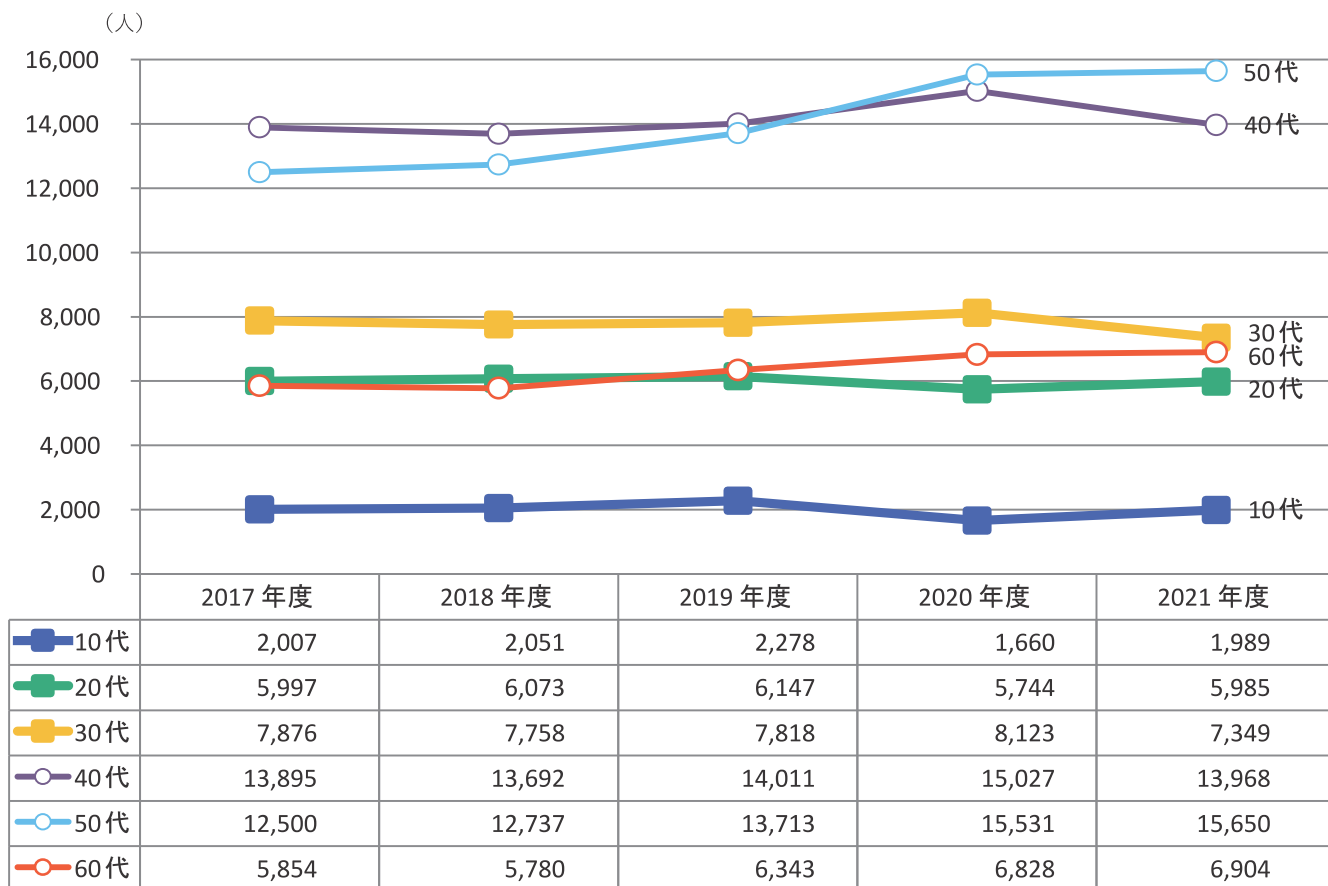
(人)

		申込者数	献血者数	前年比	全血献血					成分献血			
					400mL	前年比	200mL	前年比	400mL 比率	血 漿	血小板	計	前年比
2021年度	山口	57,537	51,845	98.0%	41,393	97.9%	523	110.6%	98.8%	6,098	3,831	9,929	97.9%
	全国	5,616,185	5,053,198	100.3%	3,282,124	101.1%	124,247	100.7%	96.4%	1,093,315	553,512	1,646,827	98.7%
2020年度	山口	58,533	52,913	105.2%	42,297	101.3%	473	78.4%	98.9%	6,432	3,711	10,143	127.7%
	全国	5,618,832	5,037,920	102.3%	3,246,688	99.6%	123,417	88.0%	96.3%	1,119,352	548,463	1,667,815	109.4%
2019年度	山口	57,588	50,310	104.6%	41,767	103.0%	603	122.1%	98.6%	4,115	3,825	7,940	112.9%
	全国	5,559,290	4,926,488	104.0%	3,261,220	101.0%	140,170	99.0%	96.0%	939,116	585,982	1,525,098	112.0%
2018年度	山口	56,006	48,091	99.9%	40,563	104.1%	494	85.9%	98.8%	2,819	4,215	7,034	82.1%
	全国	5,378,634	4,735,944	100.1%	3,230,411	99.0%	141,941	93.1%	95.8%	757,658	605,934	1,363,592	103.0%
2017年度	山口	56,255	48,129	95.3%	38,984	97.5%	575	100.7%	98.5%	3,346	5,224	8,570	86.3%
	全国	5,405,268	4,732,141	98.0%	3,261,587	99.8%	146,132	93.1%	98.9%	666,883	657,539	1,324,422	94.4%

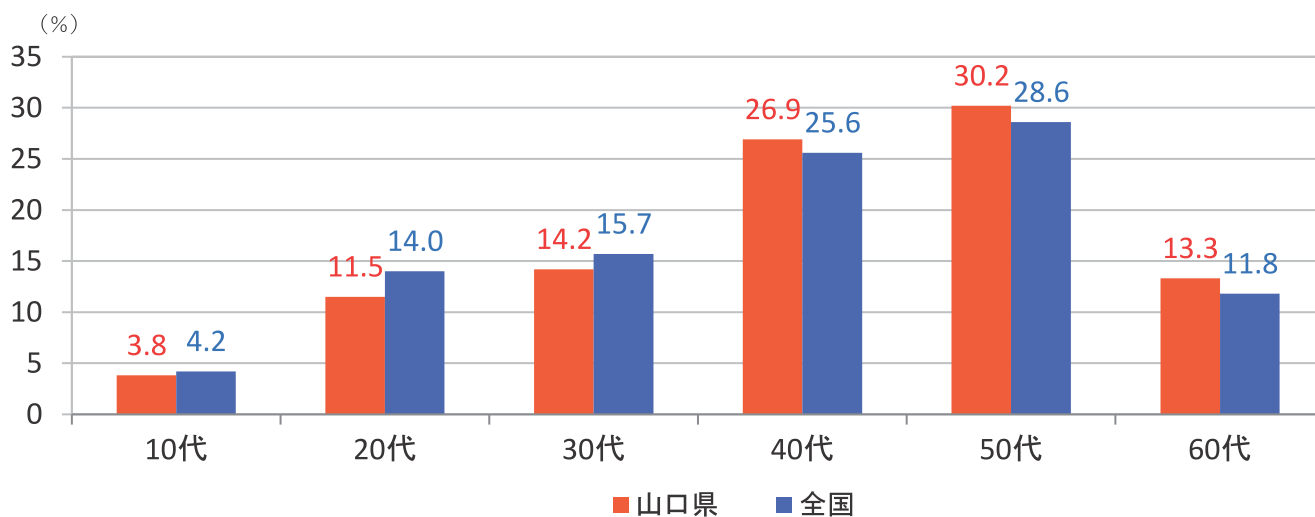
10代20代の献血者は全体の15%です。

一方で半数以上は40代以上の献血者が占めています。

年代別献血者数の推移（山口県）



2021年度献血年代別構成比



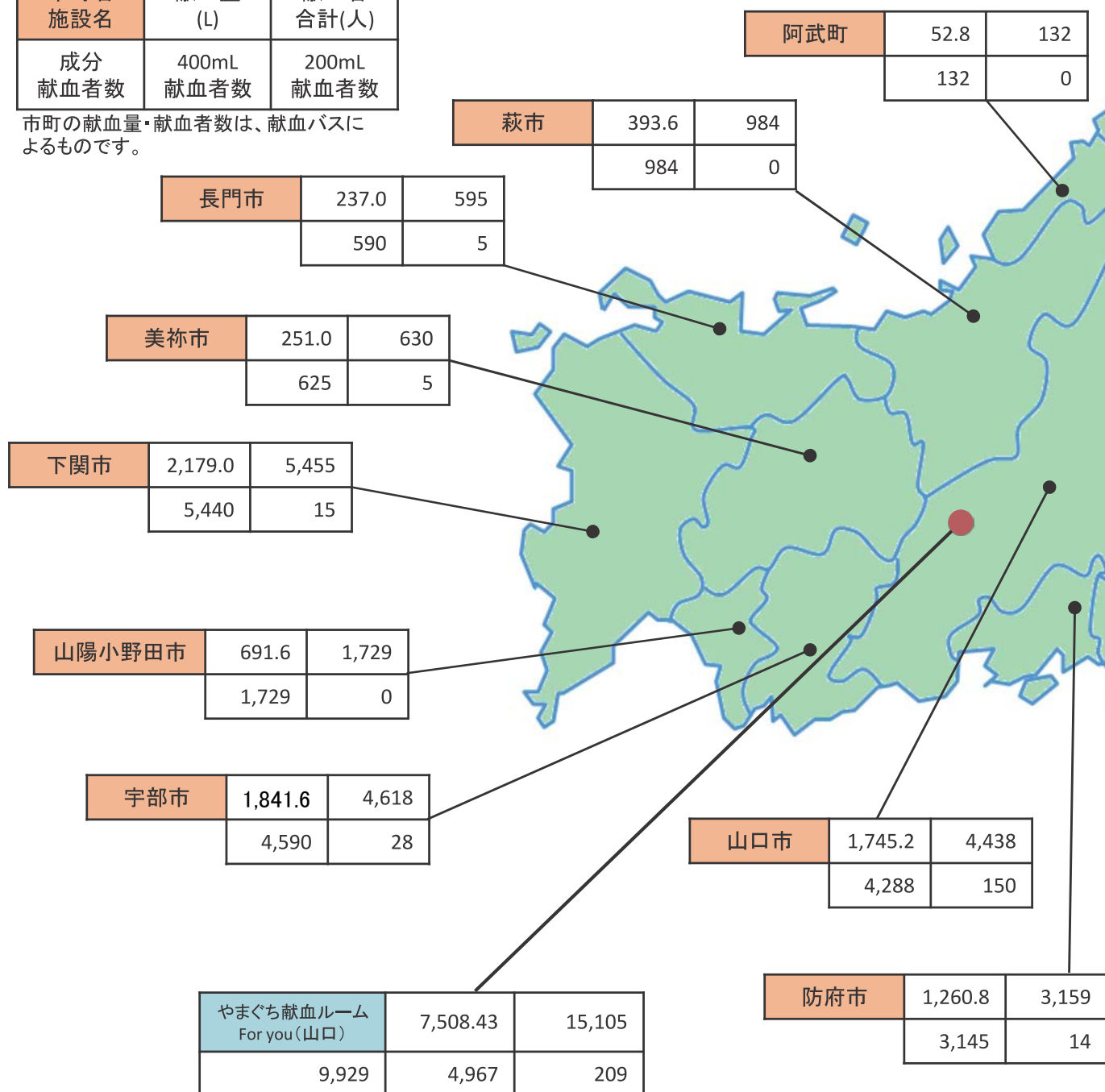
山口県における献血者の7割は、献血バスでのご協力です。

山口県における献血は、山口献血ルームFor you（山口市）と、県内を巡回する献血バスでのご協力をいただいています。

市町別献血者数

市町名 施設名	献血量 (L)	献血者 合計(人)
成分 献血者数	400mL 献血者数	200mL 献血者数

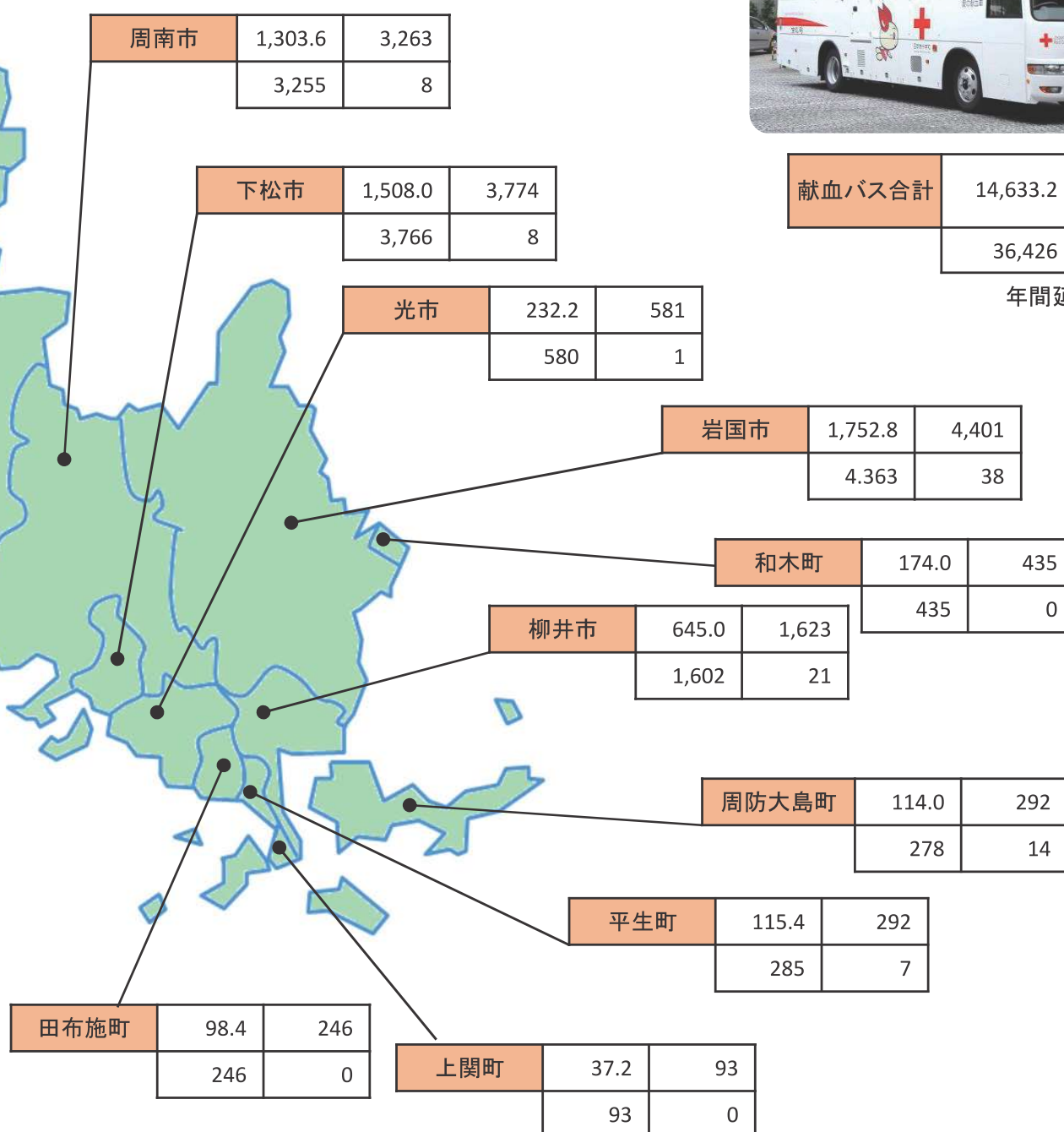
市町の献血量・献血者数は、献血バスによるものです。





献血バス合計	14,633.2	36,740
	36,426	314

年間延べ704台稼働



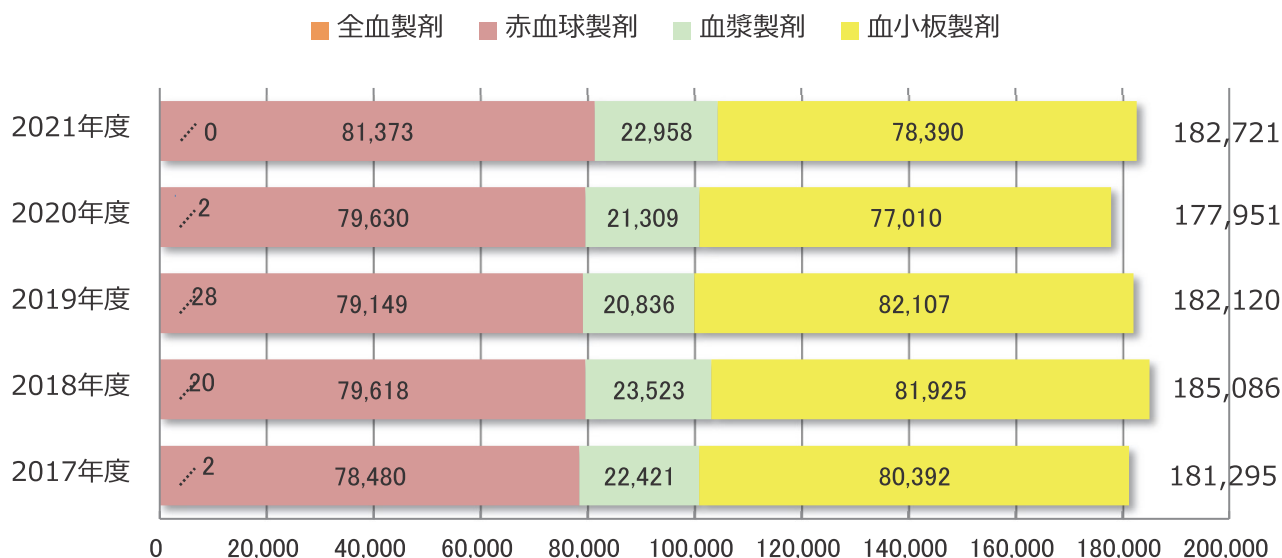
医療機関へは血液成分製剤の供給が主流。

医療機関では、必要な成分だけを輸血に使用するため、
血液成分製剤（赤血球・血漿・血小板）の供給が主流となっています。

□ 供給状況 *Supply of Blood Products*

■ 供給単位の推移（山口県）

（200mL換算単位）



（200mL換算単位）

		合 計	前年比	全血製剤		成分製剤					
				全血製剤	前年比	赤血球	前年比	血 漿	前年比	血小板	前年比
2021年度	山口	182,721	102.7%	0	0.0%	81,373	102.2%	22,958	107.7%	78,390	101.8%
	全国	17,245,017	100.7%	6	15.8%	6,474,053	101.8%	2,089,681	99.4%	8,681,277	100.2%
2020年度	山口	177,951	97.7%	2	7.1%	79,630	100.6%	21,309	102.3%	77,010	93.8%
	全国	17,132,979	98.0%	38	46.3%	6,362,679	99.4%	2,102,827	97.9%	8,667,435	97.1%
2019年度	山口	182,120	98.4%	28	140.0%	79,149	99.4%	20,836	88.6%	82,107	100.2%
	全国	17,477,494	100.1%	82	164.0%	6,403,405	100.8%	2,148,406	98.6%	8,925,601	101.3%
2018年度	山口	185,086	102.1%	20	1000%	79,618	101.5%	23,523	104.9%	81,925	101.9%
	全国	17,338,357	97.9%	50	166.7%	6,350,246	98.8%	2,179,996	98.5%	8,808,065	97.2%
2017年度	山口	181,295	103.7%	2	5.9%	78,480	98.7%	22,421	104.2%	80,392	109.0%
	全国	17,704,027	99.8%	30	31.9%	6,429,293	100.2%	2,213,085	99.4%	9,061,619	99.7%

※200mL換算単位：200mL献血から調整される製剤を1単位として換算

医療のニーズに合わせた血液製剤。

血液から作られる血液製剤は、輸血用血液製剤として医療のニーズに合わせて、さらに細かく分類され、患者さんの生命を守っています。

□血液製剤一覧 *List of Blood Products*

■主要な輸血用血液製剤一覧

(2022年4月現在)

販 売 名	略 号	効能または効果	有効期間	貯 法
照射人全血液-LR「日赤」	Ir-WB-LR	一般の輸血適応症に用いる。	採血後 21日間	2～6℃
照射赤血球液-LR「日赤」	Ir-RBC-LR	血中赤血球不足又はその機能廃絶に適する。	採血後 21日間	2～6℃
照射洗浄赤血球液-LR「日赤」	Ir-WRC-LR	貧血症又は血漿成分などによる副作用を避ける場合の輸血に用いる。	製造後 48時間	2～6℃
照射解凍赤血球液-LR「日赤」	Ir-FTRC-LR	貧血又は赤血球の機能低下に用いる。	製造後 4日間	2～6℃
照射合成血液-LR「日赤」	Ir-BET-LR	ABO血液型不適合による新生児溶血性疾患に用いる。	製造後 48時間	2～6℃
新鮮凍結血漿-LR「日赤」 120	FFP-LR120	血液凝固因子の補充 (1)複合性凝固障害で、出血、出血傾向のある患者又は手術を行う患者 (2)血液凝固因子の減少症又は欠乏症における出血時で、特定の血液凝固因子製剤がないか又は血液凝固因子が特定できない場合。	採血後 1年間	-20℃ 以下
新鮮凍結血漿-LR「日赤」 240	FFP-LR240			
新鮮凍結血漿-LR「日赤」 480	FFP-LR480			
照射濃厚血小板-LR「日赤」	Ir-PC-LR	血小板減少症を伴う疾患に適応する。	採血後 4日間	20～24℃ 要・振とう
照射洗浄血小板-LR「日赤」	Ir-WPC-LR	血小板減少症を伴う疾患に適応する。	製造後 48時間 (ただし、採血後4日間を超えない)	20～24℃ 要・振とう
照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」	Ir-PC-HLA-LR	血小板減少症を伴う疾患で、抗HLA抗体を有するため通常の血小板製剤では効果が見られない場合に適応する。	採血後 4日間	20～24℃ 要・振とう
照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」	Ir-WPC-HLA-LR	血小板減少症を伴う疾患で、抗HLA抗体を有するため通常の血小板製剤では効果が見られない場合に適応する。	製造後 48時間 (ただし、採血後4日間を超えない)	20～24℃ 要・振とう

ひとりでも多くの方に、献血が身近になるように。

血液センターでは、広く献血にご協力いただくことと、
血液事業について多くの人にご理解いただくことを目的に
さまざまな広報活動を展開しています。

□ 広 報 活 動 Public Relations



ホームページの開設

血液センターのさまざまな情報を、ホームページを利用してお知らせしています。献血会場のご案内をはじめ、キャンペーンのお知らせや献血状況に応じた献血のご協力・抑制のお願いなど充実した内容で情報発信を行っています。

■ ホームページアドレス

<https://www.bs.jrc.or.jp/csk/yamaguchi/>

フェイスブックの運用

フェイスブックを利用して、キャンペーンやイベントのお知らせをはじめ、献血に関する様々な情報を積極的かつリアルタイムにお伝えしています。



山口県赤十字血液センター
公式facebookページ



LINE@の運用

LINE@を利用し、キャンペーンやイベントのお知らせをはじめ、若年層の方に血液センターや献血について関心を持っていただけるような情報を発信しています



山口県赤十字血液センター
LINE@





キャンペーン・イベントの開催

キャンペーンやイベントを通じて、献血の普及啓発を行っています。

献血者が減少する時期にあわせて開催しています。

けんけつキッズスクール

小学校高学年を対象に、親子で参加する体験教室「けんけつキッズスクール」を開催しています。

血液や献血についての講義や血液センター、献血バスなどの見学を行います。親子でいのちや健康の大切さ、助け合いの大切さについて考える内容となっています。



献血出前講座

小学校から大学、専門学校までの児童、生徒、学生の皆様に献血のことを知ってもらい、身近に感じてもらうため、職員を派遣して「献血出前講座」を行っています。

講義とビデオ鑑賞で、血液のこと、献血のことを学んでいただくとともに、いのちの大切さ、助け合うことの大切さを考える内容となっています。

職場体験・血液センター見学

中学生、高校生の職場体験の受け入れを行っています。血液事業に関する基礎知識を学び、献血者の受け入れ、血液製剤の医療機関への配送などを体験していただくカリキュラムとなっています。

また、献血に対する知識と理解を深めていただくための、血液センター内の見学会も行っています。

お問い合わせ、お申し込みは、総務課までお尋ねください。

■山口県赤十字血液センター総務課
TEL 083-922-6866

※2021年度は新型コロナウイルス感染防止のため「キッズスクール」及び「職場体験学習」は実施していません



幅広い活動で献血協力を呼びかける。

2021年度に行った主な活動内容です。

献血を呼びかけるキャンペーン活動から血液事業を啓発する活動まで幅広く展開し、血液の確保に向けて広く呼びかけを行いました。

□2021年度日誌 *Diary*

やまぐち献血ルームFor youでの啓発活動

3月20日～4月9日	献血ルームリニューアル3周年!!	やまぐち献血ルームFor youオリジナルけんけつちゃんクッキーのプレゼント
3月1日～4月30日	アイスクリームサービスデー	献血協力者にアイスクリームのプレゼント
4月10日～30日	春の献血キャンペーン	献血協力者にスムージーのプレゼント
5月3日～31日	赤十字運動強調月間	献血協力者に赤十字公式キャラクターハートラちゃんの焼き菓子のプレゼント
6月1日～13日	雨ニモマケズ! 献血キャンペーン	献血協力者にリフレッシュグッズのプレゼント
6月15日～9月29日	平日限定☆アイスクリームサービスデー	平日献血協力者にアイスクリームのプレゼント
6月19日、20日	父の日プレゼント	「山口県花卉園芸推進協議会」様提供 献血協力者100名にお花のプレゼント
7月2日、3日	お花のプレゼント	「弘中園芸」様提供 献血協力者150名にユリの花をプレゼント
7月24日～8月15日	爽快! ナツケンキャンペーン	献血協力者に爽快グッズのプレゼント
10月1日～11月30日	ぶちうま山口献血応援キャンペーン!	献血協力者に山口県産の記念品のプレゼント
12月11日～25日	クリスマス献血キャンペーン クリスマスリースの展示	「日本のクリスマスは山口市から」事業に参加 献血協力者に記念品のプレゼント 県内の輸血臨床検査技師の皆さんによる手作りリース展示 輸血経験者よりクリスマスツリーを寄贈いただく
12月26日～1月8日	ゆく年くる年献血キャンペーン	献血協力者にカップ麺のプレゼント
1月11日～31日	あったかほかほか献血キャンペーン	献血協力者に血液バッグ型エコカイロのプレゼント
2月4日～14日	バレンタイン献血キャンペーン	献血協力者にYIC情報ビジネス専門学校パティシエ科制作のチョコレートプレゼント
3月1日～4月30日	アイスクリームサービスデー	献血協力者にアイスクリームのプレゼント
3月14日	山口商工会議所よりチョコレートの寄贈	チョコレート300名分を寄贈いただく 献血協力者にプレゼント (4月)
3月15日～30日	献血ルーム4周年Thanksキャンペーン	献血協力者にやまぐち献血ルームFor youオリジナル コーヒードリップバックのプレゼント 協力：徳山コーヒーボーイ
3月20日	コーヒー試飲会の開催	来場者に淹れたてのコーヒー (献血ルームオリジナルブレンド) をプレゼント 協力：徳山コーヒーボーイ

山口県学生献血推進協議会

7月18日	学生七夕献血	19名の学生が参加
9月12日	中国四国学生統一献血キャンペーン	主催：中国四国学生献血推進協議会 11名の学生が参加
12月12日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	主催：全国学生献血推進実行委員会 30名の学生が参加
3月13日	お花見献血キャンペーン	12名の学生が参加

県内全域での啓発活動

5月5日	青空天国いこいの広場	献血PRブースを出展 子ども 76名 保護者51名が参加
7月～8月	「愛の血液助け合い運動」強調月間	13市13会場において地域に密着したイベントを実施
9月～11月	レノファ献血応援キャンペーン	献血協力者にオリジナルグッズのプレゼント
9月～12月	レッドブル・ジャパン株式会社より レッドブル寄贈	献血協力者にレッドブルのプレゼント 第1回 9月 12,000本 第2回 12月 10,200本
1月1日～2月28日	はたちの献血キャンペーン	8市8会場において地域に密着したイベントを実施
4月1日～2月28日	山口県部活動対抗献血選手権	県下部活動所属高等（専門）学校～大学生対象 高校部門 優勝 高川学園高等学校硬式野球部 準優勝 高川学園高等学校サッカー部 大学部門 優勝 至誠館大学硬式野球部 準優勝 山口大学学生赤十字奉仕団



メディアを用いての啓発活動

8月21日 12時～12時55分	やまぐち献血ルームFor you presents 「BLOOD821」	「献血の日」にエフエム山口で特別番組を生放送 ゲスト：株式会社木原製作所（献血協力企業） 米本 太郎さん （献血協力者：山口鷲流狂言保存会） 高水高校生徒4名（献血インフルエンサー）
11月	広報用動画撮影	県内民放にてCM放映（12月～3月末）
3月19日 12時～12時55分	やまぐち献血ルームFor you presents 「Spring café terrace」	エフエム山口で特別番組を生放送 ゲスト：コーヒーボーイスタッフ



血液事業に多くの功績があった個人・団体を表彰。

毎年献血に多大なご協力をいただいた皆様に感謝の気持ちを込めて表彰を行っています。
2021年度も多くの個人・団体の皆様にご協力をいただき功労表彰を授与させていただきました。
血液事業は、こうした多くの方々に支えられています。

□ 献血功労表彰 Recognition

厚生労働大臣表彰状（1団体）

中国電力株式会社 下関発電所	下関市
----------------	-----

厚生労働大臣感謝状（6団体）

岩国警察署	岩国市
山口県立岩国工業高等学校	岩国市
山口合同ガス株式会社 山口支店	山口市
山口県農業協同組合中央会	山口市
株式会社TAIYO 山口工場	美祢市
長州産業株式会社	山陽小野田市

山口県知事感謝状（6団体）

菊川ライオンズクラブ	下関市
PACRAFT株式会社 岩国工場	岩国市
豊北ライオンズクラブ	下関市
マックスバリュ西日本株式会社 マックスバリュ田布施店	田布施町
山口産業株式会社	宇部市
萩警察署	萩市

山口県献血推進協議会長感謝状（8団体）

社会福祉法人 暁会 フェニックス	下関市
株式会社新笠戸ドック	下松市
日本モールド工業株式会社	下関市
マックスバリュ西日本株式会社 マックスバリュ厚狭店	山陽小野田市
柳井中央ライオンズクラブ	柳井市
柳井ライオンズクラブ	柳井市
山口県国民健康保険団体連合会	山口市
リコージャパン株式会社山口支社 山口事業所	山口市

☐ 2021年度山口県献血推進ポスター・作文入賞作品

Poster and Composition

■ポスター

最優秀



下松市立久保中学校 2年
増原 咲 菜

優 秀



下関市立長府中学校 2年
中 村 冴



下関市立長府中学校 2年
松 下 結 咲

佳 作



下関市立長府中学校 2年
西 川 芽 生



山口県立厚狭高等学校 1年
新 田 莉 菜



山口県立防府西高等学校 3年
鵜 飼 彩 花

■ 作文

最優秀

「献血は命をつなぐボランティア」

山口県立柳井高等学校 2年 深田 佳菜

「今日は献血の日です。」いつも通りネットニュースを見ていると、このような言葉が目に入ってきた。一九六四年(昭和三十一年)日本政府は「輸血用血液を献血により確保する体制を確立」することを閣議決定。このことをきっかけに、八月二十一日が献血の日と呼ばれるようになったそうだ。当時の日本は、「売血」が盛んで、売血が原因で肝炎の感染が起きている状況。そのような中で献血が始まった。当初はわずか二パーセント程度の献血由来の輸血用血液が、わずか十年間で百パーセント国内自給ができるようになったそうである。

このネットニュースを見て、私はふと、自宅に送られてきたハガキのことを思い出した。そのハガキは父宛に送られてきたもので、ハガキの献血キャラクターが記憶に残っていた。そこで、父にハガキのことを聞いてみた。それは献血の案内で、父は大学生の頃から定期的に献血を行っていたとのことだった。父が献血を始めたきっかけは、買い物の際、偶然、献血車がいることに気づき、スタッフの人に声をかけられ、献血をしたというものであった。そして、その時、なぜか「すがすがしい気持ち」になり、定期的に意識をして献血を行うようになったそうだ。私は、父の言う「すがすがしい気持ち」とは、なんだろうと考えた。そのような時、山口県知事からの「中学生、高校生、高等専門学校生の皆さんへ」というメッセージを目にした。「あなたも是非、献血インフルエンサーになってください。」という題名のメッセージを読んだとき、私は父の言う「すがすがしい気持ち」とは何か少しわかるような気がした。いつでも、どこでも、誰でもできるボランティア、社会貢献の一つが献血ではないかと。それも小さなボランティアで「命をつなぐ」という大きな貢献のできるものである。だからすがすがしい気持ちになれるのではないかと。そのメッセージの中には、一〇代～三〇代の献血割合が全国と比べて低い事が書かれていた。また、先日、コロナ禍が影響して献血の量が減っているというニュースを耳にした。心配である。

献血が始まり、約十年間で百パーセントの自給率を達成した日本。人々の温かい気持ちの力はすごいと思う。今回、ネットニュースから偶然「献血」について知ることができた。山口市野田の献血ルーム「For You」についても献血のハガキから知ることができた。「知る」ということは大切だ。今はコロナ禍で不自由だ。以前はあったボランティアの機会も少なくなっている。「時期が悪いからできない」ではなく、今できることを私たちは見つけていかなくてはいけないのではないだろうか。私も十六才になった。大人にどんどん近づいている。「命をつなぐボランティア」に参加してみたい。そして、父のような「すがすがしい気持ち」を味わいたい。

優 秀

「命を繋ぐボランティア」

柳井学園高等学校 3年 福田 彩乃

私は先日、初めて献血をした。きっかけは、学校に献血バスが来たからだ。以前から、献血に興味を持っていた私は、すぐに献血をしようと決意した。しかし、献血はやりたい人が必ず出来るわけではなかった。

献血をするには、いくつかの条件を満たしておく必要がある。その条件には、年齢や体重、渡航歴などがある。そして、献血直前にもまだまだ具体的な条件があった。私は、こんなに条件があることを知らなかった。幸い私は、この条件を全て満たしていたため、献血をすることができた。中には、条件を満たせず献血できずに帰る生徒を、何人か見かけた。「なぜ、こんなにもたくさんの条件を作り、献血する人を制限するのだろう。せっかく協力しようとしているのに。」私はそう思った。しかし、これにはきちんと理由があるのだ。献血をする人も、輸血を受ける人も皆「人間」だ。それぞれが健康に生きていく必要がある。たくさん条件があるのは、それぞれの健康を守るためだからだ。献血をしようとしている人の中には、貧血気味の人もあるだろう。元々血液が少ない人が献血をするとどうなるのか。その人自身の健康を損ねてしまう可能性がある。他にも、限られた期間の中で複数人と性行為を行った人も献血はできない。性感染症のリスクがあるからだろう。このように、さまざまな条件がある背景には、人々の健康を守ることがあるのだと思う。

では、献血をしたいけど条件がわからない人や、条件を満たせない可能性のある人はどうすればいいのか。答えは簡単

である。献血ルームやバスの訪問先に行けば良いのだ。初めは皆、不安だろう。私も、実際不安だった。しかし、職員の方が丁寧に教えてくれるし、質問にも答えてくれる。職員の方は常に笑顔で明るいので、注射をするまでには不安も自然となくなっていた。例え、条件を満たせず献血が出来なかったとしても、恥ずかしいことではない。「献血をしてみようかな。」少しでも、そう思えることが大切なのだ。これから先、高齢化が進み輸血を必要とする人が増えるだろう。最初は怖いかもしれない。注射が苦手な人もたくさんいると思う。しかし、少し勇気を出してみしてほしい。その勇気で救える命が、繋がる笑顔がたくさんあるのだ。まずは、献血について知ることからでもいい。そうすれば、献血に興味湧いてくるはずだ。興味が湧けば、献血ルームやバスの訪問先にも行きやすくなるだろう。とにかく、献血に興味を持ち、少しでも協力しようという気持ちが大切なのだ。

このように、献血にはたくさんの条件がある。しかし、それと同じだけ、もしくはそれ以上に、血液を必要としている人がいる。そして、その患者さんの帰りを待つ家族、友人がいる。その人達のためにも、ぜひ、献血に協力してほしい。献血は、誰にでも出来るボランティアだから

優 秀 「人から人への命綱」

山口県立熊毛南高等学校 3年 立畠 杏莉

「また今度挑戦してね。」正直、とても悔しかった。十六歳になったら私も献血をしよう、以前からそう決めていた。私の通っている学校では、文化祭前になると毎年献血バスが来て、献血に協力している。献血する当日、私も体調を万全に整え、バスの中に足を踏み入れた。しかし、私は僅かだが採血できる基準を満たしておらず、献血ができなかった。

五年前のある日の買い物帰り、駐車場に献血バスが止まっており、たまたま近くの掲示板を目にした。輸血用血液が不足しており、苦しんでいる患者さんがいる、という内容だった。驚いた。今まで献血は目にする程度の認識だったが、詳しく知りたいと興味を持った。顔も名も分からない誰かの尊い命。私が献血をする事で少しでも命を繋げられるのなら――。その日から献血をしようと強く志願するようになった。

献血。それは、病気や怪我の治療で輸血が必要な患者さんの為に、健康な血液を無償で提供するものだ。輸血用の血液は、人工的に造られておらず、全てを献血で補っている。また、長期保存も現段階では不可能なのだ。さらに輸血を何度も受けた患者さんは、適合する血液を探すのが困難だったり成分輸血が必要になったりする。献血と聞くと、赤い血液を提供する印象が強いが、必要な一部成分を提供する場合もあるのだ。私は初めて知った。より多量の血液が、日々必要不可欠とされている理由が分かった気がする。それだけではない。献血をするまでには、体重や血圧、服用薬、ヘモグロビン量など様々な基準を満たす必要があるのだ。看護師さんから「また今度挑戦してね。」と私のように声掛けされ、献血を諦めざるを得ない人がきっとこれまでも沢山いたのだろう。

献血はできないが、私にも何か取り組める事はないだろうか。考えた結論が、より多くの人に献血のしくみや重要さについて知ってもらう事だった。そして今、この献血推進作文を書くに至った。健康な血液を命の為に必要不可欠としている人が日々いること、献血に協力したくてもできない人がいること、献血によって多くの命が繋がられていること。現在、新型コロナウイルスの感染拡大で献血をする人が減少し、ますます血液不足に陥っている。輸血用血液の需要量が献血による血液供給量を大幅に上回る可能性の統計も出ており、このままでは救えていた命も救えなくなってしまう。献血は勇気がある行為かも知れない。しかし、その勇気や親切心で今日も誰かの命が繋がっている事実を頭に入れておきたい。また、人にも伝えていきたい。

私は将来、医療の現場に携わる仕事を目指している。今は、献血の重要さを周囲の人達に伝える事くらいしかできない。だが、知ってくれた人が少しでも献血に興味を示し、挑戦してくれれば私は嬉しいと思っている。顔も名も知らない、誰かの尊い命を守っていけるように。

佳作 「助け合いの献血」

山陽小野田市立埴生中学校 2年 米田 陽菜香

献血は大切である。そう考えたのは中学生になって初めての夏だった。きっかけは家族で行ったショッピングモール。入ってすぐの場所にて、ある一人の大人から声をかけられた。

「献血のご協力お願いします！」

私は困った。献血に対する知識が無かったのだ。家に帰った私は、今回を機に献血について調べることにした。

まず、献血とは何を表すのだろうか。調べてみると、献血とは病気の治療や手術などで輸血を必要とする患者の「命を救う」ための活動だそうだ。その血液は、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアが主体のようだ。

では、なぜ献血は必要なのだろうか。答えはこうだ。輸血に使用する血液は未だ人工的に造ることができず、長期保存することもできないから。そのため、輸血等に必要血液を確保するためには、一時的に偏ることなく一日あたり約一万三千人の献血に対する協力が必要なのだ。

また、日本国内では少子高齢化により、主に輸血を必要とする高齢者が続出し、若い世代が減少している。十～三十代の献血協力者数はこの十年間で三十五パーセントも減少。つまり、少子高齢化がますます進むと血液の安定供給に支障をきたす恐れがあるのだ。これらのことから分かるように、今後も患者の命をより多く救うためには今まで以上に若い世代の献血に対する理解と協力が必要なのだ。

私が献血について調べるうちに一番驚いたこと。それは、献血に協力できる人に基準があるということだ。具体的な例を挙げると、種類にもよるが、十六歳以上七十歳未満であること。体重が四十キログラム以上。年間六回以内など様一だ。指定された薬の服用、予防接種等を行っている方は献血に協力することができない模様。様々な基準は、きっとより安全な血液であることを保証するためだというふうに捉えることができるだろう。

他にも安全性を考慮するために、一人から多量の献血を行う血液製剤が行われているようだ。人間一人ひとりの血液は、血液型が同じであろうと微妙に異なるため、多数の献血者から輸血するほど副作用発生率の上昇に繋がるのだ。

私は今回献血について調べるうちに、まだまだ知らないことが多数あって驚いた。私自身、献血についての大切さがよく分かった。しかし、世間一般ではどうだろう。私の知人に聞く限り、献血への理解は疎か、献血そのものの認識も薄いようだった。より多くの人に理解を深めるためにも、自らが主体となって拡散するべきだと思う。私もいずれ年齢を重ねる中で、再び献血に向き合うことがあるだろう。そのときは、互いが協力し合い、助け合うようになりたいと思う。

佳作 「献血で変える未来」

柳井学園高等学校 1年 橋本 響

私たちの体内には、酸素を運び、病原体と戦い、出血を止めてくれる血液が流れています。しかし、この血液は病気や手術、突然の事故による大量出血など様々な原因で失われてしまいます。大量出血をしたあと直ちに輸血しなければ、体に酸素が回らず死に至ります。多くの命を救うために、医療現場には常に大量の血液が必要です。そして、それらを必要とする人に十分に供給するには、私たち若い世代が献血に積極的に参加することが重要なのです。「献血が大切だ」と考える理由が、私には二つあります。

一つ目は、誰かのためだからです。高齢化が進む現代社会で、輸血が必要な高齢者のため、献血に協力する必要性があります。病気や事故で必要としている誰かの命を繋ぎとめるために、絶えずできるときに多くの人が献血をすることは、とても大切です。私の父は、市役所に献血車がやって来たときには、必ず献血をしています。昔、一度だけ「どうして献血するの。」と、父に尋ねたことがありました。そのとき、父は「誰かの役に立つかもしれないし、もしその誰かが家族だったとき、一番に助けてあげられるかもしれないからやってるんだよ。」と、父なりの考えを教えて貰いました。私はこのときから、献血できる年になったら、私もやりたいと思うようになりました。献血は皆で協力すれば、誰かを助け、巡り巡りもしものときに自分にとって大切な人の命も救えるかもしれないのです。

二つ目の理由は、自分のためだからです。父の考えを聞いてから、献血は自分のためにもなるのではないかと考えました。もし自分が輸血を必要としたとき、十分な量がなかったら、その場で死んでしまいます。しかし、もし自分を含めた沢山の人が協力すれば、輸血ができ、助かるかもしれません。

血液は、体中を巡る命の源です。けれども、血液にも寿命があり、約百二十日といわれています。そのため、体内では減ったりなくなったりした分を補い、均一になるように働きます。でも、献血として、血液が体の外に出れば、寿命が変わってくるのです。一般的に輸血用血液製剤の全血(全ての血液成分が含まれている)や赤血球といった種類は有効期限が二十一日間といわれています。また、血漿は採血後一年、血小板においては四日間という非常に短い期間しか持ちません。このことから、血液を必要としている誰かのために、献血はより多くの人が継続して血液を提供する必要があります。献血の提供状況は、日本赤十字社のホームページで確認できるようになっています。

献血とは、無償で血液を提供することと定義されています。しかし、その血液は巡り巡って必ず誰かの力になり、もしものときに自分のためになります。皆で献血を積極的に行いましょう。そうすれば、誰もが健康で安心な暮らしができる未来が必ずやってくるのです。

佳 作 「献血との戦い」

柳井学園高等学校 3年 中村 航大

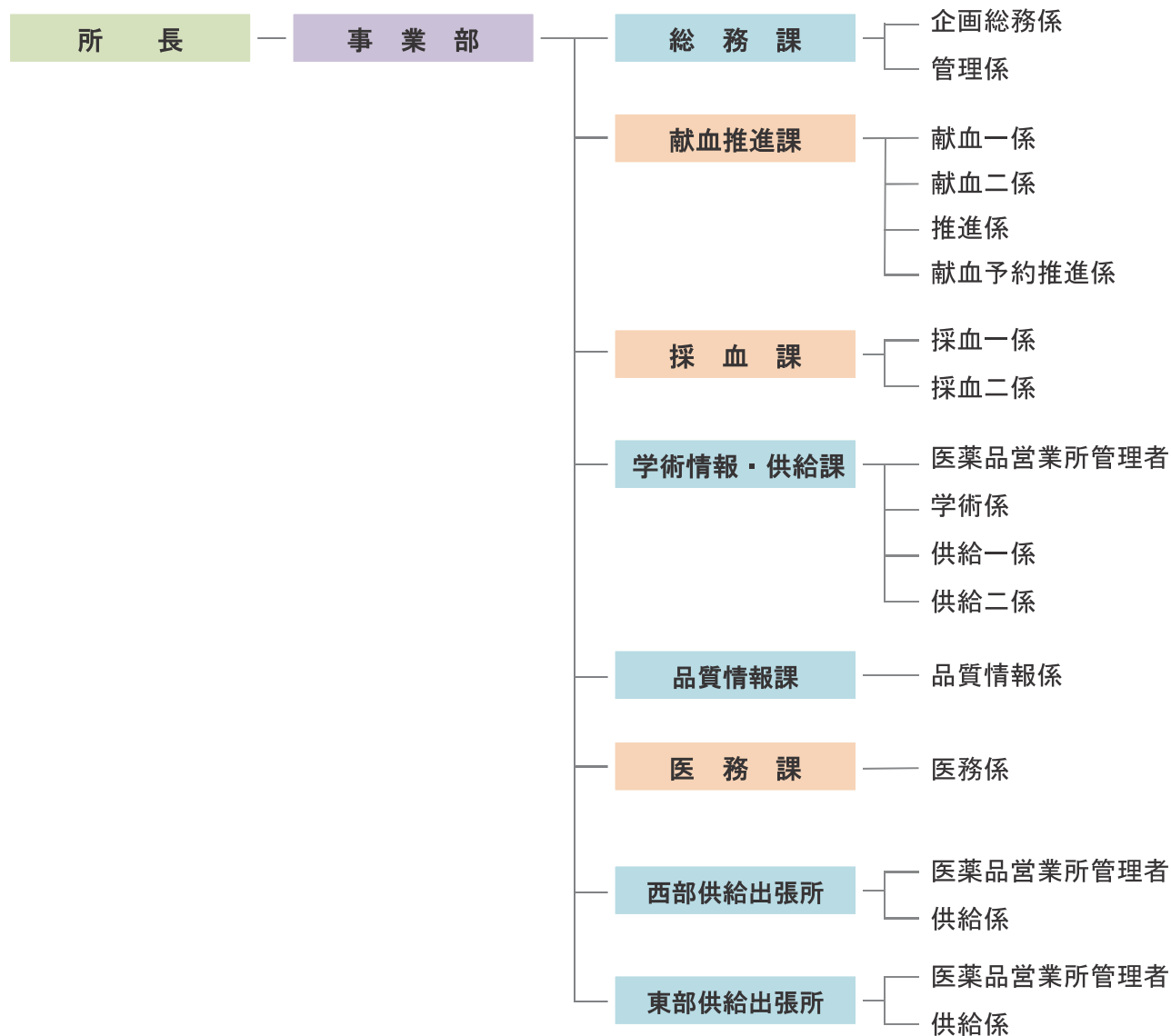
僕はこの夏、初めて献血をした。僕は何を隠そう、かなりのビビリだ。なぜそんな僕が、献血をしたのかを少し話そうと思う。

初めて、「献血」というものに触れたのは、高校一年生の夏頃だ。外からトラックが来た時のような音が聞こえたので下を見ると、十字のマークに屋根が付いているバスが止まっていた。初めて見るバスで、先生にこの中で献血をすると聞いたのが、献血との出会いだ。そして、それと同時に十八歳で献血が出来るというワクワクと恐怖も味わった。それからあっという間に時間が経ち、学校に献血車が来ているのを見る度に、何とも言えないものが込み上げていた。

三年に進級し、少しした頃だった。急に「献血」という字が頭をよぎった。それから数カ月が経った時、献血の募集があった。先生は「受けたい者だけでいい」と言っていたので、ホッとした自分がいた。しかし、そんなのは束の間。次の日に学校に行くと、みんなやる気満々で、正直どうかしてると思った。僕はお調子者で、すぐに格好をつけたがる。そのせいで、友達から「お前も受けるよな?」と聞かれドキッとしたが、いつもの調子で「もちろん受けるよ」と口走ってしまった。しまったと思ったが、言い変えることも出来ずに、持っていたプリントをすぐに書き変えた。その日の夜から、自分との葛藤が始まった。毎日毎日「痛くない痛くない」「怖くない怖くない」と呪文のように声に出して自分に訴えた。けれども、そんなことで恐怖心がなくなることもなく、ただ時が過ぎていった。だが、ある日を境に恐怖がなくなった。それは、たまたまテレビで、輸血を百回以上受けてきた人の話を見たからだ。その方は、小さい頃に癌と診断され、何度も輸血をしたという。世の中には、そういった人もいるのに、なぜ自分はただ怖いからという理由で、献血を拒否しようとしていたのかと、自分が馬鹿らしく思えてきたからだ。ただ、恐怖は無くなったが、いつもならしないようなことを始めた。食器洗いやトイレ掃除など、気が付いたらしていた。他にも、ご飯を食べた後に急に歩きたくなったり、部屋にあるバスケットボールをついたり、とにかく動いてないと落ち着かなかったのだ。そうこうしている内に、とうとう献血の日になった。朝は冷や汗をかいていて、とにかくその日は、また恐怖に襲われた。けれども、もうやると決めていた僕は、こんなところでビビっていてもしかたないと思い、心を決めて学校に向かった。一時間目、二時間目とあっという間に時間が過ぎ、いよいよ僕の順番が近づいてきた。鼓動は高なり、今にも弾けそうになっていた。僕の番になった。献血の針を刺す瞬間は、なるべく針を見ずに深呼吸で挑んだ。もう心臓はバクバクで倒れそうな時に、右耳から「もう打ちましたよ」と看護師さんの声が聞こえた。その時僕は思った。「自分がバカだった」と。献血が終わってからは、何とも言えない晴れやかな気分で達成感にひたり、スッキリした気分だった。そして、次からはもう少しリラックスしてチャレンジしよう、と自分にそう言い聞かせたのだった。

□ 組織機構図 Organization Chart

(2022年4月1日現在)



採血業

管理及び販売業

☐ 職 員 数 *Number of Staff*

(2022年4月1日現在)

(人)

職 種	医師	薬剤師	検査技師	看護師	事務職	計
本 所	3	1	3	25	50	82
西部供給出張所	0	1	0	0	10	11
東部供給出張所	0	1	0	0	13	14
合 計	3	3	3	25	73	107

☐ 車 両 台 数 *Number of Vehicle*

(台)

車 種	献血バス	検診車	マイクロバス	送迎車	広報車	献血運搬車	器材運搬車	乗用車	計
本 所	4	2	0	5	5	9	1	4	30
西部供給出張所	0	0	0	0	0	4	0	0	4
東部供給出張所	0	0	0	0	0	5	0	0	5
合 計	4	2	0	5	5	18	1	4	39

3か所の施設で血液事業を展開しています。

1965年（昭和40年）に山口赤十字病院の一室に開業。

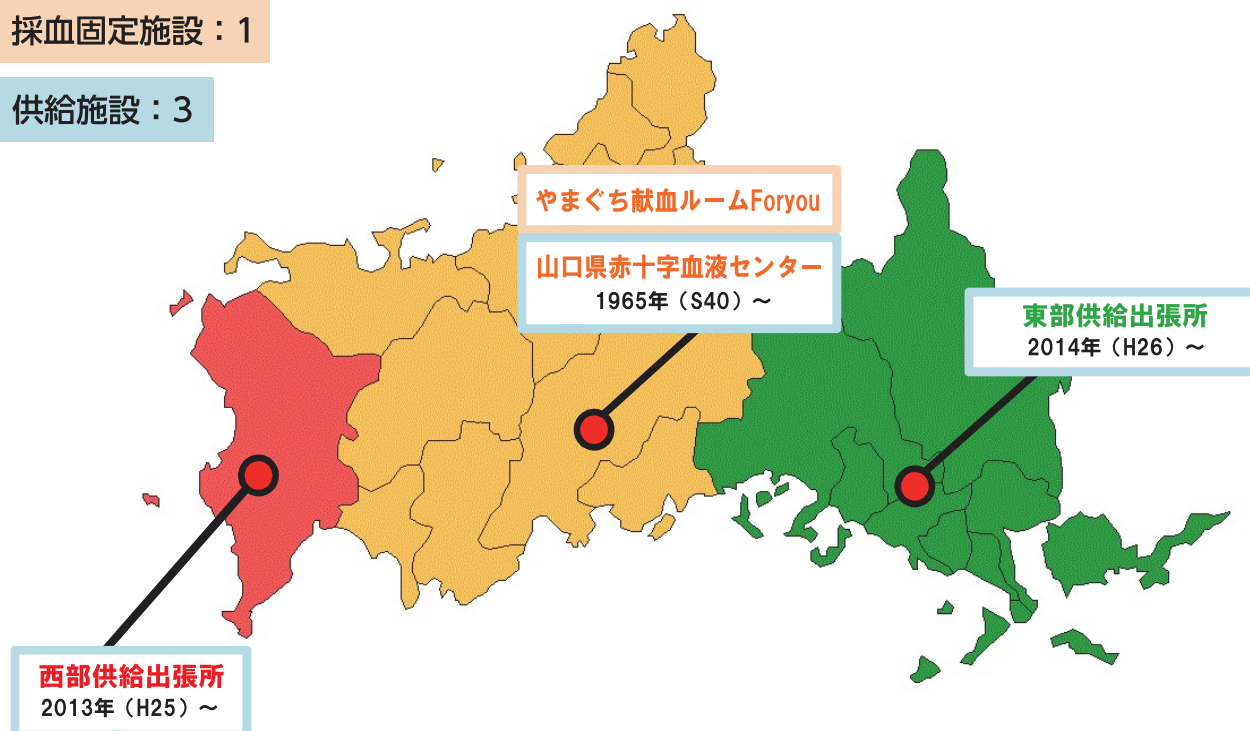
現在では、採血固定施設1か所、供給施設3か所で、血液事業を展開しています。

□ 施設 Facilities

（2022年4月1日現在）

採血固定施設：1

供給施設：3



※色分けは、供給エリア

西部供給出張所

〒751-0817 下関市一の宮卸本町2-22-1
TEL 083-222-3720 FAX 083-222-3727
〈供給エリア〉 1市、下関市
〈医療機関数〉 28



やまぐち献血ルームFor you（山口県赤十字血液センター）

〒753-8534 山口市野田172番地5
TEL 083-922-6866・0120-456122

〈献血受付時間〉

【成分献血】

（平 日） 9:30～11:30／13:00～16:30

（土日祝） 9:00～11:30／13:00～16:00

※骨髄バンクドナー登録は成分献血の受付時間内に受付しております。

【400・200mL】

（平 日） 9:30～12:00／13:00～17:40

（土日祝） 9:00～12:00／13:00～16:40

〈定 休 日〉 毎週木曜日

〈供給エリア〉 7市1町、山口市・防府市・萩市・長門市・
美祢市・宇部市・山陽小野田市・阿武町

〈医療機関数〉 63



東部供給出張所

〒745-0662 周南市高水原1丁目3番22号
TEL 0833-92-0050 FAX 0833-91-0010

〈供給エリア〉 5市5町、周南市・下松市・光市・柳井市・平生町・田布施町・
上関町・岩国市・周防大島町・和木町

〈医療機関数〉 42



新たな歴史を積み重ねて着実な歩み続ける。

1965年（昭和40年）の開設以来、輸血を必要とする患者さんのため
時代とともに、着実な歩みが続けています。

□ 沿革 History

1960

- 1964年（昭和39年） 「献血の推進について」閣議決定
11月、「山口県献血推進協議会」を設置
- 1965年（昭和40年） 2月、山口赤十字病院内の一室に山口県赤十字血液センターを開設
献血バス一台により献血業務を開始
- 1969年（昭和44年） 4月、山口赤十字病院敷地内に独立の社屋を新築
- 1974年（昭和49年） 献血100%の体制が確立

1970

- 1975年（昭和50年） 日本民間放送連盟主催「はたちの献血」キャンペーン実施
生化学的検査サービス結果を異常者へ通知開始
- 1976年（昭和51年） 4月、供給体制を直配から一部委託配送へ変更
- 1978年（昭和53年） ビン採血からバッグ採血に全面切り替え

1980

- 1982年（昭和57年） 献血手帳の様式を一部変更（供給欄廃止）
生化学的検査サービス結果を献血者全員に通知開始
- 1983年（昭和58年） HIV-1及びHTLV-1抗体検査を開始
- 1984年（昭和59年） 6月、現在地に社屋を新築移転
- 1986年（昭和61年） 400m L 献血と成分献血を導入
- 1989年（平成元年） 世界に先駆けて、HCV抗体検査を開始

1990

- 1990年（平成 2年） 民間製薬業者による国内での有償採漿が中止され、血液製剤製造
目的の採血が日本赤十字社に一元化
- 1990年（平成 2年） 11月、「山口県学生献血推進協議会」を設置
- 1992年（平成 4年） 1月、「山口県骨髓データセンター」を開設
- 1995年（平成 7年） 5月、下関市に山口県初の「献血ルームFor you」を開設
献血時間診項目が全国統一される
- 1997年（平成 9年） 10月、「山口県血液製剤使用に係る懇談会」を設置
- 1998年（平成10年） 放射線照射輸血用血液製剤を供給開始
- 1999年（平成11年） 献血可能年齢が64歳から69歳までに引き上げ
全国の献血者データの一元的管理を開始
「NAT（核酸増幅検査）」を開始



血液センター旧社屋（1969年当時）

2000

- 2000年(平成12年) NATプールサイズを500プールから50プールに減少
 2001年(平成13年) 7月、「第37回献血運動推進全国大会」を山口市で開催
 2002年(平成14年) 日本赤十字社の血液事業が、50周年を迎える
 2003年(平成15年) 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」施行
 2005年(平成17年) 改正された薬事法が完全施行され、日本赤十字社は医薬品製造販売業の許可を取得
 2006年(平成18年) 3月、複数回献血クラブ「TEAM35」設立
 献血手帳「紙」から献血カード「磁気カード」へ切り替え
 2007年(平成19年) すべての血液製剤を白血球除去製剤に切り替えて製造開始
 血液検査業務を廃止し広島県赤十字血液センターに移管
 採血基準の血液測定を血液比重検査からヘモグロビン検査に変更
 血小板製剤の有効期間が採血後72時間から採血後4日間に変更
 2009年(平成21年) 検査サービス通知にグリコアルブミン(GA)検査を追加

2010

- 2010年(平成22年) 5月、委託配送体制から供給分室(4箇所)による配送体制に変更
 2011年(平成23年) 200mL献血者にも血球計数検査の通知を開始
 400mL献血は男性17歳から可能になる(旧18歳)
 2012年(平成24年) 3月、「献血ルームFor you」改装オープン
 4月、広域的なブロックを単位とする広域運営体制を開始
 日本赤十字社中四国ブロック血液センターを設置(広島市)
 2013年(平成25年) 県西部地区の供給拠点として「西部供給出張所」を開設
 日本赤十字社が、移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律における全国唯一の「造血幹細胞提供支援機関」に指定
 2014年(平成26年) 5月、県東部地区の供給拠点として「東部供給出張所」を開設
 個別NAT(献血者1人分の血液ごとに調べる検査)に切り替える
 2015年(平成27年) 日本赤十字社による血漿分画製剤の販売が終了
 4月、宇部供給分室を廃止し山口県内への供給はすべて直配体制になる
 2016年(平成28年) 洗浄血小板製剤の供給を開始
 2017年(平成29年) 12月、「献血ルームFor you」業務終了
 2018年(平成30年) 3月、山口県赤十字血液センターと献血ルームFor youを統合し、「やまぐち献血ルームFor you」として改装
 複数回献血クラブの会員サイトを献血Web会員サービス「ラブラッド」*に一新し、全国で統一した運用を開始
 *「ラブラッド」とは「ラブ(愛)」と「ブラッド(血液)」をかけあわせた愛称
 2019年(令和元年) 6月、献血つながりプロジェクト「みんなの献血」がスタート(21年5月終了)
 2020年(令和2年) 新型コロナウイルス感染拡大により全国で献血バス受入の中止が相次ぐ
 三密回避、献血者安定確保のため移動献血会場で献血予約開始



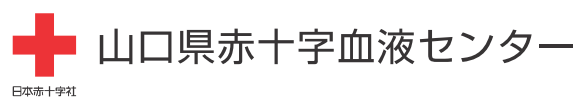
献血手帳



中四国ブロック血液センター



「ラブラッド」ロゴマーク



〒753-8534 山口県山口市野田172番地5
TEL 083-922-6866

2022年6月2日発行